

(2) 第2回委員会

① 議事要旨

○物流インフラ整備について

- ・ 道路ネットワーク整備への企業ニーズが高く、今後、必要な道路は優先順位をつけて、着実に整備していく必要がある。
- ・ 道路整備を進めるとともに、安価に利用できる方策を検討する必要がある。また、ネットワークとして機能することが重要である。
- ・ 高速道路だけではなく、内航海運や鉄道を生かした物流システムを検討するべきである。
- ・ 空港、港湾の連携方策を打ち出していくべきである。
- ・ ネットワークが脆弱な埋立地では陸の孤島となっているエリアがあるため、埋立地間のアクセスを改善していくことが重要である。
- ・ 物流インフラの整備が諸外国よりも遅れており、これを強化していくことが必要である。特に、神戸港と大阪港の連携、港湾と内陸の連携など、関西全体のネットワークを強化する観点が必要。

○土地利用について

- ・ 産業の構造転換を進めて行くなか、新たに土地を供給することが難しい状況では、土地利用の転換を円滑に、かつ長期的に行うための方策を検討することが重要である。
- ・ 土地不足が懸念される中、内陸産業用地の活用を検討する必要がある。
- ・ 夢洲、フェニックス埋立地の活用策を検討する必要がある。
- ・ 企業の土地需要の考え方と、土地供給の考え方をマッチングしていくことが必要である。
- ・ 潜在的な低未利用をどのように活用していくのか、問題提起をするべきである。
- ・ 新たな埋立にあたっては、埋立の必要性を十分に検討する必要がある。

○その他、方策の検討にあたって

- ・ 最近の経済情勢は悪化しているが、長期的な視野で方向付けていく必要がある。
- ・ 未来を先取りした産業集積の形成は大阪湾ベイエリアの強みなので、こうした産業への重点配分を打ち出して行くべきである。
- ・ 次世代産業の打ち出しと、既存産業のルネッサンスの両面を考える必要がある。
- ・ 新しい産業に加え、既存産業をどのように結び付けていくのか、といった検討が必要である。また、中小企業への波及や、内陸産業への波及を作り出すインフラや仕組みが必要である。
- ・ モデル地区における個々の検討を、ベイエリア全体の仕組みにつなげていく必要がある。
- ・ 大阪湾ベイエリアの最近の動きは国内でも認知されておらず、情報を発信していく

- ・ 企業集積を図るための取り組みにはスピード感が求められる。
- ・ ものづくり産業の拠点としての方向性に加え、集客拠点としての性格もある。医療産業集積や研究施設を生かした活性化方策を検討する必要がある。
- ・ 産業立地を図るためには、人材確保の面からも支援を行う必要がある。
- ・ 就業者や居住者のアメニティを確保する観点から、親水空間の整備といった検討が必要である。
- ・ 水質悪化を改善する観点から親水護岸の整備が必要である。
- ・ 自治体が行う企業誘致策に関しては、これ以上の方策を講じることが難しいレベルにあり、今後は、特区のような打ち出し方を検討していくべきである。
- ・ 情報発信など、来年以降の具体的な展開を考える必要がある。

以 上

② 委員会資料

大阪湾ベイエリア活性化方策検討委員会（第2回） 議事次第

平成 21 年 1 月 22 日（木） 14:00～16:30
チサンホテル神戸 2 階・あじさい

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 議事
 - (1) 第 1 回委員会・検討会概要報告
 - (2) 大阪湾ベイエリアの土地活用・創出に関する現状・予測について
 - (3) 企業ニーズの状況（アンケート・インタビューより）
 - (4) モデル地区による検討中間報告
 - (5) 話題提供 「大阪湾岸地域の活性化に関する提言」
 - (6) 大阪湾ベイエリア活性化方策（案）の提示
----- 休 憩 -----
 - (7) ディスカッション
○「大阪湾ベイエリアの活性化法策（案）」について
○モデル地区について
4. 当面の作業予定と第 3 回委員会までの流れ
 - (1) 物流業者向けアンケートの進め方
 - (2) 第 3 回委員会までの流れ
5. 閉会